

平成 20 年度第 2 回孔内計測WG 議事録（案）

日時:2009年3月2日(月)13:00~17:00
場所:海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者(敬称略)

共同WG長:中村恭之(東京大学海洋研究所)佐藤 暢(専修大学)
WG 委員:木口 努(産業技術総合研究所)佐柳敬造(東海大学)武田信従(石油資源開発株式会社)
山本裕祥(シュルンベルジェ株式会社)早稲田 周(石油資源開発株式会社)

科学計測専門部会・STP 委員(泥水関係):
斎藤実篤(海洋研究開発機構)

オブザーバー
CDEX:伊藤久男
事務局:梅津慶太

欠席者(敬称略)

WG 委員:荒木英一郎(海洋研究開発機構)篠原雅尚(東京大学地震研究所)山田泰広(京都大学)
日野亮太(東北大学)
科学計測専門部会・STP 委員(泥水関係):石橋純一郎(九州大学)木村浩之(静岡大学)
布浦拓郎(海洋研究開発機構)山中寿朗(岡山大学)
技術開発推進専門部会:佐野 修(東京大学地震研究所)

議事次第

前回(H20#1_080820)議事録確認

[報告事項]

1. J-DESC/IODP報告
2. CDEX報告
3. 科学計測専門部会&STP 報告(斎藤 STP vice-chair)
4. 技術開発専門部会&EDP 報告(佐野部会長)

[検討事項]

5. IODP 航海プレクルーズトレーニングについて
5-1. 物理計測関連
5-2. 泥水検層関連
6. 2009 年度 J-DESC コアスクール:ロギングコース開催検討
7. 平成21年度検討課題について
8. WG メンバーの更新について
9. その他

配布資料

資料 1 前回(#1_080820)議事録
資料 2 J-DESC/IODP 報告
資料 3 #8 EDP(090114-16:Shanghai, China)報告書
資料 4 #8 STP(090306-09:Honolulu, Hawaii) Draft Agenda
資料 5-1 J-DESC コアスクール:ロギング基礎コース 2008_開催報告
資料 5-2 " _アンケート結果
資料 6 孔内計測 WG 委員ローテーション表
参考資料 1 J-DESC/IODP/ICDP スケジュール

議事録（案）

はじめに中村共同 WG 長より資料の確認がなされた。

前回議事録確認

会議終了までに修正などの意見はなく、原案のまま承認された。

[報告事項]

1. J-DESC/IODP 報告

事務局より資料 2 に基づき、標記の件について報告がなされた。

- ・ 2009 年度より IODP 部会執行部が新体制となり(部会長:山崎俊嗣氏)、4 月の総会で承認される予定
- ・ 今年度、J-DESC は新規に正会員、賛助会員が入会したため、増収となった
- ・ 高知コアセンターと J-DESC において、コアスクールなどの協力体制が確立
- ・ 日独で掘削科学研究の交流を行う制度を確立した
 - ・ 孔内計測関係では、ドイツは進んでいるため、こういう制度が有効に活用できるようになればよい
- ・ 2013 年以降の IODP の科学計画を策定する手始めとして、INVEST 会議が 9 月にブレーメンで開催される
- ・ そのために J-DESC ではテーマ別や全体でのワークショップを開催している(9 月までにもう 1 回程度全体 WS が開催される予定)
 - ・ Technology WS が 12 月に開催された
 - ・ その場で検討された事項は、大水深・大深度掘削、サイエンスニーズにマッチしたコアリング技術、長期孔内計測(Biology、Geochemistry など含む)

2. CDEX 報告

伊藤オブザーバーより報告がなされた。

- ・ 「ちきゅう」はマントル・クレスト・ジャパンが運用を担い、現在試験運用中
- ・ 319(5 月初め～8 月末):将来のオブザバトリーのための掘削孔の Logging を行う予定
- ・ 322(9 月初め～10 月初め):沈み込み前の堆積物(Input Site)に対し、3 つの Logging を行う予定

3. 科学計測専門部会&STP 報告

斎藤 STP 委員より報告がなされた。

- ・ 科学計測専門部会では、コアスクール開催の検討、プレクルーズトレーニング開催の検討を孔内計測 WG の実行項目として合意した
- ・ 2009 年 3 月 6 日～9 日に STP が開催される
- ・ STP において WG に関連する事項は下記の通り
 - ・ First Scientific Riser Drilling:5 月から始まるライザー掘削の現在の計画の状況が CDEX より報告される
 - ・ EDP からの報告:STP から EDP に泥水使用の際のコンタミについて検討してほしいと要請があったが、EDP にはあまり意図が伝わっていなかったようで、ほとんど検討されていない。STP からしっかりと意図を伝えて検討してもらい必要がある

4. 技術開発専門部会&EDP 報告

伊藤オブザーバーより資料 3 に基づき報告がなされた。

- ・ 1月中旬に上海で開催された
- ・ Technology Roadmap に関して、ISPを実現するための技術開発、提出されているプロポーザルにどの程度技術開発が要求されているかについて検討された。ST Roadmapを策定しているSTPとの連携を深めてく。
- ・ Drilling Proposal の Review に関して、698-Full2 は当初 8,000m 超の掘削が必要とのことであったが、3,000mとするとプロポーネントから連絡があったため、SPC での審議事項となった。そのため、698-Full2 は EDP では審議していない。734-APL については、CORK の設置に関して、IODP-MI に EDP としての意見を提出した。
- ・ FY2010 の ED プロポーザル 3 件に関して評価を行った
- ・ EDP では、INVEST に向けて White paper を作成する(次回の 7 月会議をめぐりに)

[検討事項]

5. IODP 航海プレクルーズトレーニングについて

佐藤共同 WG 長、斎藤 STP 委員より説明がなされた。

- ・ 4/23~24 に 319、322 合同で 1 回目のトレーニングを行う予定

5-1. 物理計測関連(319、322 共通)

- ・ 2 回目のプレクルーズトレーニング(物理計測)を行う(旅費支援)には、執行部による承認が必要
- ・ 個人的にトレーニングをしたいとの連絡が中村共同 WG 長にあった。この対象者に対しては、別途マンツーマンでトレーニングを行う
- ・ トレーニングの対象となる乗船者は 319、322 合わせて 3 名
- ・ Logging に慣れることが大きな目的であり、Co-chief から要望がある場合は、その点について重点的にトレーニングを行う
- ・ 319 の Co-chief には、Logging に関して事前の準備や乗船研究者との打ち合わせが必要であることを WG として勧告するとともに、プレクルーズトレーニングの必要性について尋ねる
- ・ 船上でのトレーニングで対応できる場合はそちらのみで対応してもらう
- ・ MDT に関してのトレーニングは WG としては扱わない

5-2. 泥水検層関連(319 のみ)

- ・ Sedimentologist としての Duty はカッティングスを記載すること
- ・ 2 回目のプレクルーズトレーニング(泥水検層)に関しては既に執行部より開催の承認が得られている
- ・ 対象となる乗船者が 1 名のため、特別なスクールは開催しない
- ・ 対象者の都合が付くようであれば、第 1 回プレクルーズトレーニングを行った際に足を伸ばして 2 回目のトレーニングとして、見学をしてもらうのが最も効率が良い
- ・ トレーニングを行う場合は早稲田委員にご協力をいただく
- ・ 都合が付かないようであれば船上で On the Job Training
- ・ 今週中に執行部に国外所属の方へのプレクルーズトレーニング旅費支援が可能かどうかを伺う(事務局)

6. 2009 年度 J-DESC コアスクール:ロギングコース開催検討

中村共同 WG 長より説明がなされた。

- ・スクールでは「ちきゅう」に載っている機器を使うため、開催時期は少なくとも10月下旬以降になる(学生の参加を見込み、2~3月が妥当か)
- ・A: 前回同様の基礎コースとB: テーマを絞ったアドバンスコースが考えられる
- ・日程がタイトであったため、AにしてもBにしても前回より日程を延ばして(3日間の日程で)行いたい
- ・Bを開催する場合はニーズを把握する必要がある
- ・その年その年でAをやるかBをやるか状況を見て決める
- ・基礎コースは毎年開催するべきで、アドバンスコースは2~3年に一度のペースで必要に応じて開催するのが良い

2009年度はAの基礎コースを開催し、アドバンスコースを開催するための資料・情報集を続けていくことが合意された

- ・開催が年度末となると、同じ時期に開催するコア解析基礎コースなどの調整も必要
- ・8月~10月にはレクチャーノート作成
- ・10月~11月に参加者募集
- ・次回ワーキンググループまでにはある程度方向性が固まる予定

7. 平成21年度検討課題について

佐藤共同WG長より標記の件について説明がなされ、下記の点が合意された。

- ・ロギングコースの継続的開催(科学計測・技術開発両専門部会より挙げられている課題)
 - ・コアスクール泥水コースについては、サンプルを入手する必要がある→319にEducation用としてサンプルリクエストを出す(佐藤共同WG長が行う)
 - ・実施するとすれば、2009年の年度末または、2010年夏(この時期になればIBM掘削の話もあるかもしれない)が可能かもしれない
 - ・来年度第1回目のワーキンググループ会議時には具体的な検討を始める
- ・技術者と科学者の意見交換の場の提供
 - ・INVEST前(夏休みまで)には一度開催するのが望ましい
 - ・INVESTの準備を通してケーススタディーとして行っていくのが現実的か
 - ・4月初めに会議が開催される技術開発推進専門部会、科学計測専門部会に対し、特に泥水のコンタミネーションに関して、技術者(今出来る技術・将来の技術)と科学者(今のサイエンス・将来のサイエンス)のすりあわせ(具体的な研究テーマに基づく検討)が必要であることを提言する
 - ・提言は両部会で検討の後、執行部まで上げることが理想的

8. WGメンバーの更新について

中村共同WG長より追加資料に基づき説明がなされた。

- ・現在のタスクは、物理検層、泥水・マッドガス(+長期を含む孔内計測)
- ・泥水関係の佐藤共同WG長、武田委員、早稲田委員が継続
- ・孔内計測関係では、現委員の荒木委員、篠原委員、日野委員は退任(必要に応じてオブザーバー出席をお願い:メーリングリストには登録)、佐柳委員は継続、加納氏、後藤氏に新たに委員に就任、またはオブザーバー出席をお願いする
- ・物理検層は中村共同WG長、山本委員、木口委員が継続、山田委員は退任し、後任に辻氏に新たに委員就任をお願いする

9. その他

- ・今回で退任する荒木委員、篠原委員、日野委員、山田委員の4名に謝意を表し、拍手が送られた。
- ・今後のCDEXからのオブザーバーに関して、泥水はMoe氏、検層は真田氏、孔内計測は伊藤氏にお願いし、会議の議題に応じて出席を求めることが合意された
- ・次回開催日程
4月の科学計測専門部会と技術開発推進専門部会終了後に検討(早ければ5月)

Action Items and Consensus

Action Item 0903-01

プレクルーズトレーニング(ロギング)はExp. 322の乗船予定者1名に対してのトレーニングを検討する。Exp. 319の乗船予定者に関しては、co-chiefに確認を取り、乗船者の船上でのタスクに応じて、開催を検討する。内容によってはExp.

322向けと同時に開催する方向で検討する。

担当:中村WG長

Action Item 0903-02

Cuttingsの処理の船上フローを確認する。

確認先:CDEX

担当:佐藤共同WG長

Action Item 0903-03

プレクルーズトレーニング(泥水検層)に関しては、Exp.

319乗船予定者に対して実施するが、石油資源開発(株)技術研究所の協力をいただき、個別に対応することとし、WGとしての開催はしない。

担当

荒木委員(as co-chief)J-DESC執行部に対してプレクルーズトレーニングの開催を依頼

執行部:日程決定後、石油資源開発(株)技術開発研究所に協力依頼を出す

佐藤共同WG長:乗船予定者への連絡

早稲田委員:乗船予定者との内容の打ち合わせ。受け入れ。

Action Item 0903-04

科学計測・技術開発両専門部会に対して、しかるべき機関に、乗船研究者の決定、掘削航海の詳細(scientific prospectus)の公表などのプロセスを迅速に行うように要請することを依頼する。

担当:中村・佐藤共同WG長

Action Item 0903-05

J-DESC コアスクール・ロギングコースは、基礎コースを今年度も開催する方向で準備を進める。年度末の開催を目標に11月頃に募集を開始する。

担当:中村共同 WG 長

Action Item 0903-06

科学計測・技術開発両専門部会に対して, 具体的な研究テーマ (IBM, モホールなど) に基づいた研究者と技術者の意見交換の場を設け, 将来の技術開発, 研究のたたき台とすることを提案する.

担当:佐藤共同 WG 長

Consensus 0903-07 WG メンバーの交代について

荒木・篠原・日野・山田委員の WG に対するこれまでの貢献に対し, 謝意を表明した.